

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290300050		
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	せらび千葉稲毛		
所在地	千葉市稲毛区宮野木町2125-7		
自己評価作成日	令和4年11月28日	評価結果市町村受理日	令和5年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節に合わせたイベントを行い入居者様が日々の生活を楽しめるよう取り組んでいます
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビングは日が差し込んで明るく、広々している。季節の花や創作物が飾られ、居心地の良い雰囲気である。対面式キッチンでは利用者も調理や洗い物に参加している。生活空間は建物の2階・3階に分かれているが、ユニット合同行事で顔を合わせることが出来る。夏祭り、クリスマス、節分の豆まきなどさまざまなイベントが企画されていた。フロアごとのレクリエーションも、創作、誕生会、流しそめんなど盛りだくさんで、日々が単調にならないよう気を配っている。IT化を進めており、利用者情報はタブレット端末からタイムリーにアクセスできる。研修もeラーニングで職員個々に実施し、管理者が受講状況を把握する仕組みがある。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は繰り返し共有している 実践しにくい部分もあるが理解はできている	理念を各フロアに掲示し、職員共用ファイルにも綴じている。管理者は毎月のフロア会議で意見交換をおこなうとともに、日常会話でも理念に関連した概念や言葉を職員から聞くことで、実践の確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ対策で地域社会との繋がりは薄れているが近隣の公園へ出かける程度はできている	コロナ流行前は、保育園児の来所、中学生の合唱参観などの交流があった。自治会の夏祭りの際は、神輿休憩のための駐車場提供もしていた。現在は散歩中に地域住民と挨拶するなど、できる範囲で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ブログを発信し、認知症の方への理解をいただいている。ご家族様や来訪者へも丁寧な説明を心掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は書面開催となっているが、運営状況を報告し、いただいた意見は周知しサービス向上に努めている	コロナ流行前は民生委員、後見人、福祉用具担当者、薬局の薬剤師が参加していた。現在は書面開催である。利用者の状況や事故・ヒヤリハット、行事の報告をし、報告書は家族と地域包括支援センターに送っている。	以前参加をしていたメンバーにも報告書を送って関係性を復活し、それぞれの立場からの考えを報告書に記載して意見を交換することで、サービス向上を図ることを検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を活かし事業所の運営状況や、事例発表を行い関係を築いている	地域包括支援センターや保健所との連絡体制があり、コロナ感染者の情報や感染症対策等をメールで共有している。またオンライン研修の事例検討を通じて、医療・介護の連携強化も図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の設置や必須研修を行い、職員は正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる 玄関の施錠は行っているが離接防止のためである	不審者対策で玄関は施錠している。居室やリビングは2～3階にあるが、利用者が一人で階段・エレベータを使い、玄関に降りることは無い。利用者の要望があった際は職員が付き添い、安全に配慮して外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の実施や虐待防止委員会により事例を共有し、虐待を未然に防ぐ取り組みを行っている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが理解するまでに至らず活用することもない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約の締結を行っているため内容の把握は難しいが一歩的な説明にならないよう説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議を開き、意見を取り入れている。ご家族から要望や意見があった場合は記録に残し上長への報告も行っている	利用者や家族の意向・要望は、会議で共有し、職員間で意見交換をしている。家族には面会や介護計画見直しの際に、ホームから聴き取りをしている。意見・要望は運営・サービスに反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議でスタッフから意見を聞く機会を設けている。リーダー会議やセンター会議での意見を共有している	職員からの相談を待つ姿勢ではなく、管理者から積極的に声かけをして、引き出すことにしている。また、職員個々の意見・要望は、その実現の方法を管理者と職員とで、共に考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度により職員の意識確認を行い向上心を持てるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ソラスクールを通じ各自が繰り返し研修できる取り組みがある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会はあるが時間の都合上取り組めていない		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や関係者からできるだけ情報を収集し、安心していただけるように心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心配事が解決できるように支援方法の提案をし良好な関係作りを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と共有しながら必要な支援を検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でご本人ができることは尊重するようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の心情を聞き入れながら、協力していただけるよう関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり以前のような自由がなくなっている	コロナ禍のため外泊は少なくなっているが、面会制限は特に設けておらず、各階のエレベータ前や居室で歓談している。また、携帯電話を所有している利用者は、居室で自由に電話をしたりメールを送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員同士が情報を共有し、関わり合えるような支援方法を検討している		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から得た情報を共有し支援方法を検討している	利用者の日々の状況はタブレットで入力し、職員間で共有している。個人記録には、入居前の生活歴、ホームでの生活の希望などを記載している。会話の難しい利用者は、表情や仕草から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から情報を得ており、ご本人からも聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の記入により情報の共有をしカンファレンスを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題解決のために、関係者には随時意見を求め介護計画に繋げている	個人記録を基に、計画作成者が項目ごとにアセスメントを記入している。担当者会議で支援を検討し、介護計画に反映している。見直しは半年に1回としているが、変化がある場合は随時の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録から情報の共有は出来ている。日々変化があればその都度支援方法の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多職種とも連携し、利用者に合わせた支援ができるように提案している		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍での制限もあるが安全の範囲内で支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状況を把握し、訪問診療、訪問看護により適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医が月2回、訪問看護師が週1回、利用者の健康管理をしている。専門医の受診が必要な場合は、訪問診療医から紹介してもらっている。家族の受診同行が困難な場合は、職員が付き添いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護に来て頂き、相談できるような体制になっている。変化があれば直ぐに相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の面会は行えないが担当医や看護師から情報を得ている。得た情報はスタッフにも共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行っており、場合によっては医師、事業所からご家族への説明を行っている	利用契約時、重度化した際の対応指針を利用者・家族に説明し、同意を得ている。終末期が近づいたときは、医師から家族に説明している。職員は利用者本人、家族に寄り添い、不安軽減に努めている。昨年は1名の看取りをおこなった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一次救命処置が行えるように受講を進めているがスタッフによっては行えていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を実施している。自治会への加入をし地域とも繋がりを持っている	避難・消火訓練は年2回実施し、併せてハザードマップや避難場所を確認している。また備蓄品一覧表や保管場所チェック、発電機のテストも行い、災害時対応に備えている。事業継続計画(BCP)を作成している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のペースに合わせた対応を心がけている。虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会により事例検討を行っている	プライバシー保護に関するチェックリストをつけている。チェックの結果は虐待防止委員会や身体拘束適正委員会で共有し、意見交換をしている。接遇について、eラーニングで職員全員が研修を受ける仕組みがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉から思いや希望を汲み取るよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人を尊重し、できる範囲で行っている。利用者のペースを尊重しスタッフの都合を押し付けないようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔を心がけ、その人の好みに合わせた支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日やイベント時は利用者の好みを伺っている。利用者の力を借り準備、片付けも行っている	業者が納入した食材を職員が調理している。デザートづくりや下膳など、利用者もできるところに参加して活躍している。誕生日や行事のメニューに利用者の希望を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録に残している。個々に合わせた食事形態に変えて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力の把握を意識しながら、ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のADLや排泄パターンを把握し支援を行っている	排泄記録をもとにトイレ誘導をしている。排泄の自立に力を入れており、布パンツに移行した利用者も複数いる。夜間もできる限りオムツにはせず、ポータブルトイレを活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分量を把握し自然な状態で促せるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自立されている方は希望を伺うことができている。スタッフ側の都合もあるが利用者の意は尊重している	入浴は週2~3回、午後におこなっている。しょうぶ湯やゆず湯、入浴剤などを使い、楽しい雰囲気づくりをしている。介助が不要の利用者は、午前の時間帯で、希望に合わせて入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援できている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師と連携を取りながらその都度確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベントの実施や、個々の楽しめる機会をつくり支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は行っていないが、家族の協力により外出できる方もいる。人員の配置により近隣に出かけることもある	感染予防のため外出は控えているが、ホームのベランダや中庭で外気浴をおこない、気分転換をしている。新型コロナ流行以前は、外泊、外食、散歩がてらのお茶タイムなど、楽しく外出する機会が数多く作られていた。	新型コロナの流行が落ち着いてきたら、外出、外泊など、これまでおこなっていた楽しい活動を再開していくことが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の持ち込みは禁じられているので、場合によってご家族様に協力していただく		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者と家族の希望によりやり取りができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りをご利用者と作っている。温度、光、明るさには配慮し、居心地の良い環境になるようにしている	リビングは利用者と職員が共に掃除をして清潔にしている。1月の装飾として絵馬が飾られていた。季節の花、くつろげるソファも置かれ居心地の良い空間である。こまめな換気、加湿器による乾燥防止もおこなわれていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの置き方を工夫したり、座席も希望を聞きながら居場所を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れた物を持ってきて頂いたり、自由に過ごせるようにしている。安心して使って頂けるよう整理整頓を行っている。リネン交換、清掃は月3回は実施している	居室には使い慣れた家具や好みの装飾品を持ち込み、自宅に近い環境となるよう配慮している。夜間に明かりが気になる利用者には、ドアにのれんをつけるなどの工夫をしている。居室は利用者、職員とで清潔に保たれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が自立した生活を送ることができるように安全な環境作りに努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと